

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4171200308
法人名	クオーレ基山
事業所名	グループホームクオーレ基山
訪問調査日	平成20年3月19日
評価確定日	平成20年5月30日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171200308
法人名	クオーレ基山
事業所名	グループホーム クオーレ基山
所在地	佐賀県三養基郡基山町宮浦885-6 (電話) 0942-81-7455

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年3月19日	評価確定日	平成20年5月30日

## 【情報提供票より】(平成20年3月2日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 4.4 人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,990 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,200 円			

## (4) 利用者の概要(3月2日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 91 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿毛病院、聖和記念病院、高尾病院、原歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>田園地帯の主要道路から少し入った所にある木造平屋建てのホームである。職員は入居者の尊厳を守りながら家庭的な雰囲気のあるホーム作りを実践している。毎月行っているバスハイクは入居者や家族から好評を得ている。入居者の振る舞いや笑顔を見ていると、家庭的な環境と優しいケアの中、ゆったりと楽しく過ごしている日常がよく窺われるホームである。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題となっていた緊急時の訓練については、看護師を指導者に繰り返しの訓練に取り組んでいる。また、町との連携については介護相談員が運営推進委員に就任したり、季刊の便りを地域包括支援センターへ持参したりしており継続的な取り組みが期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で項目ごとに日常の取り組み状況を点検し、話し合い、現状でいいものと改善が必要なものを洗い出した。改善が必要なものについては意見を出し合いながら改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議の主な議題は運営に関する報告事項である。各委員も就任後日も浅く、又、介護保険等法の関係事項の理解度もばらつきがあり、十分な討議や意見交換等も今後の課題として更なる充実を期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族来訪時何でも話してもらえるよう伝え、意見箱を置いたりポスターを貼ったりしている。また、家族会もあるが意見等の表出について、家族等は意見や不満、苦情を言いだし難いということを理解し、意見を表出できる環境や場面づくりへの更なる取り組みも期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム西側の町道は通学路であり、ホームも「子ども110番」の家となっている。ホームは自治会に加入し各種行事等にも参加している。緊急時における地域の協力応援体制も出来ている。また、地元のボランティアの協力を得たり、野菜や漬物をよく貰ったりするなど地域との連携に努めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表者(管理者)の介護に対する思いがこめられた理念が作り上げられており、玄関に大きな額で掲示されている。	○	地域の中でその人らしく生活することを支える地域密着型サービスの果たす役割を反映した理念づくりへの検討を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には、理念を伝え、理解してもらうようにしている。又、管理者と職員は、月2回の職員会議や毎日のミーティングで理念を唱和し、日々のケアの中でその実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会の一員として区の行事等に参加し、町内の児童福祉施設との交流や社協デイサービスの物づくりにも参加したり、作品展に出品するなどしている。また、ボランティアの受け入れや野菜を貰うなど地元との交流も行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義をよく理解しており、自己評価は全職員で日常の取り組みを点検している。評価で改善を要する事項については意見を出し合いながら取り組んでいる。	○	改善のための取り組みについては、改善計画表を作成するなど全職員がその成り行きを確認しながら取り組めるような工夫も期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例会議が開催され、運営面の報告のほか地域とのかかわり方(各種行事等)などが協議されており、委員の発言はまだ少ないものの、話し合いによる地元の方々の参加を得た餅つき大会の開催等提案も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域市町圏組合や地域包括支援センターには、季刊のホーム便りを持参するなどしている。また、必要に応じて町担当者から助言や指導を受けることもある。	○	現場や利用者の課題解決のためには、実態や考え方を町の担当者によく知ってもらい、共有することが必要であり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝え合うような積極的な関係づくりの一層の取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	季刊発行の「ホーム便り」を送付している。家族訪問時には毎月のバスハイクなどの写真を見てもらったり、日々の暮らしぶりなど話している。遠方の家族には毎月の請求書送付時に健康状態やその他を伝える文書を同封したり、電話でも適宜報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には意見等を遠慮なく話してもらえるよう常に伝えている。また、リビングには意見箱が置かれ、外部の相談窓口のポスターも掲示されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開所以来、正職員の離職は無いがパート職員の離職がある。離職者や新規採用者が出て利用者が動揺しないよう、ダメージを与えないよう十分説明するなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催されるグループホーム協議会主催の研修参加や毎月ホーム内研修・勉強会を開催して技術面の向上等を図っている。外部研修に参加する場合は勤務ローテーションの変更等便宜を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他ホームのスタッフと共に討議したり情報交換したり、又、勉強会等でサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学にきてもらい、本人や家族との面談など、納得・理解を得て利用して貰っている。また、入居当初の対応については専門家の話を聞いて活用している。なお、体験入居も可能である。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側という意識を持たず一緒に過ごし、入居者から漬物(梅・ラッキョウなど)の漬け方や畑仕事の手順等教えてもらうこともよくある。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向を踏まえながら支援している。また、言葉や表情、視線からその真意を推し測ったり、それとなく確認して対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを行い、本人や家族の要望を聴き、職員全員で話し合いながら介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直している。入居者の状態変化があった場合には、医師との相談も踏まえ、その都度状況に応じた新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院送迎や外出・外泊の支援、または買い物支援等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人なじみのかかりつけ医を推奨しており、遠隔地のかかりつけ医への通院送迎も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・看取り指針が作成され、本人や家族には入居時説明し同意が得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助等の声かけはさりげなく行われている。また、個人記録には他の利用者の名前等はかかれておらず、業務日誌への記録においても個人情報の保護に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、入居者は個々の生活習慣に合わせたペースで自由に過ごしている。職員は入居者のペースを尊重しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食後の片付けは入居者と一緒に行っており、食事は入居者と職員が同じテーブルで和やかにとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、原則2日に1回、午後に入浴としているが風呂は毎日沸かしており希望者は毎日でも入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	金魚のえさ係や鉢植えの水遣り、洗濯物たたみ、掃除、縫い物等役割を持たせた支援が行われている。また、計算ドリルや小物作り、レクリエーションなどの楽しみごとの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出行事のほか、その日の話の流れや思い付きの要望で買い物や散歩等外出がよく行われている。また、家族との外出・外泊にも柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、日中鍵を掛けることの弊害をよく理解しており、玄関や居室に鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年に2回入居者と共に避難訓練を行っている。また、緊急時には地域の協力も得られる体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日記録し、水分の摂取は1日に5回以上行っている。また、栄養バランスについても確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には不快な音や臭いはなく、リビングには季節の草花や雛飾り等が置かれ、壁飾り等も含め季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた整理ダンスや小物入れ又は椅子テーブル、使い慣れた日用品等が置かれ、絵や写真、飾り物、中にはお雛様も飾られており、利用者の居心地のよさに配慮している。		